

質問 災害は、いつ起こるか分からないが、台風はある程度予測することができる。近年、台風が大きき、勢力の強さは増大し、「今までに経験したことのない雨量・風の強さである」と耳にすることが多い。瑞穂町において

は、川の氾濫、溢水被害、土砂崩れとともに、暴風による被害も非常に心配である。台風接近時の町の避難所における防風対策、新型コロナウイルス感染症対策、避難ペット収容対策について、町長の所見を伺う。

町長 避難所として使用される施設は、台風の影響が予想される場合は、屋内の一角に臨時の収容スペースを設ける。

衛生管理を徹底し、感染症の発生予防に努めていく。また、発熱疾患のある避難者については、専用スペースの区分と必要な医療が受けられるよう、移送について円滑に実施できる体制を整えていく。

ペットの収容場所は屋外を基本とするが、風雨が強まることが予想される場合は、屋内の一角に臨時の収容スペースを設ける。



下澤 章夫 議員 (自民新国会)

台風接近時の避難所について



町長 衛生管理を徹底し感染症の発生予防に努める



2年7月に長岡コミュニティセンターで行われた避難所開設訓練(職員訓練)



山崎 栄 議員 (自民新国会)

杉浦町政4年間の総括と町の展望を問う



町長 町民の命と健康を守ることを最優先に取り組んだ

質問 町長は選挙公約に掲げた危機管理官の配置、待機児童ゼロ、多摩都市モノレールの箱根ヶ崎方面延伸などの実現への取り組みを着実に推進している。特に箱根ヶ崎方面延伸について、多くの町民の声を支えに近隣自治体と共同でモノレール沿線まちづくり構想を策定し、都に延伸に向けた予算執行を実現させたことは、長年の行政経験が生かされたものと認識している。そこで4年間の総括とコロナ禍の状況での今後の町の展望について伺う。

町長 町長に就任以来、町民の命と健康を守ることを最優先課題として取り組んだ。これまで、財政負担の抑制を念頭に、超少子高齢、教育、にまちづくりを進めた。危機管理、新庁舎建設、新規に手掛けた事業は、多摩都市モノレール延伸約3年間で80事業に及び、将来のまちづくりは、第5次長期総合計画の各種施策を町民の皆さまと共に進めていく。



役場西側の町並み



原 隆夫 議員 (公明党)

学校トイレの洋式化率を早期に80%以上に



教育長 学校全体の改修計画の中で判断しつつ

質問 文部科学省が9月、全国の公立小中学校トイレの調査結果を発表した。東京都内の洋式化率の平均は71.1%、我が町は55.5%である。町は公共施設やだれでもトイレなど新規のものはすべて洋式としている。洋式化により清潔で衛生的となり、避難所としても高齢者や障がいのある方にも喜ばれる。都は80%以上を目標に国の補助金に乗せしている。我が町も早期に洋式化率80%以上にすべきと考えるが、町長の所見を伺う。

度から19年度にかけて改修した。当時は、学校の意向を尊重し、和式便器を残しつつ、洋式便器に変更してきた。時代の経過とともに、子供たちの生活様式も変化していることを踏まえ、今後は老朽化が進んでいる学校施設全体の改修計画の中で、緊急性や必要性を

整理し、総合的に取り組んでいきたい。

こんな質問もありました

特別警戒区域の住居移転対策は

町長 単自治体では不可能である。危険性が予測される区域にお住まいの方には啓発活動を行っている。

教育長 学校現場に関することなので、私から答えさせていただく。現在の町内小・中学校のトイレは、平成15年



小学校のトイレ

委員会活動報告

交通対策特別委員会



都へ「多摩都市モノレール箱根ヶ崎方面延伸の早期実現」を、JRへ「八高線増便や駅員勤務時間の見直し、安全対策など」を強く要望

1月18日に都およびJR東日本八王子支社・JR東日本東京工事事務所に要望書を提出しました。本来ならば、訪問して要望内容を直接訴え、回答を求めるところでしたが、新型コロナウイルス感染症の緊急事態宣言発出中であることを考慮して、郵送による提出としました。

都には昨年より一歩踏み込んだ多摩都市モノレールの箱根ヶ崎方面延伸の早期実現を求め、JR東日本には、八高線が今後モノレール延伸でさらに需要度を増す路線であることから、さらなる充実と安全性を求めました。



箱根ヶ崎駅に到着する八高線上り電車